

豊橋市議会傍聴記

地方政治  
クリエイト  
伊藤 秀昭

◆教育ビジョン

伊藤篤哉氏(自民)は、4月に山西新教育長が誕生し併せて新たな教育委員会制度の本格的なスタートとなったことから、新教育長の教育理念とビジョンについて聞いた。

新教育長は「子どもに寄り添い、限りなく可能性を引き出し、『生きる力』を育む」とこそ『不易の教育』であり、いつの時代でも変わることのない教育の根幹です。子供たちを取り巻く地域の教育力を生かし、地域と学校が一体となって

の渋滞緩和策について質問。都市計画部長は「国道259号の拡幅をはじめ、他の都市計画道路の再編や、渥美線の踏切解消、民間の大規模開発など様々な課題があり、南栄地区全体のまちづくりとして捉えていくことが

◆南栄のまちづく

公共施設内外の渋滞の問題について質問したのは尾崎雅輝氏(自民)。

東三河を代表する千人規模のライフポートや千五百人収容のアイプラザ豊橋の退出時の渋滞をやむを得ないとしつつも、アイプラザ周辺

の固定資産台帳を作成した上での公共施設の重要性を強調し、その取り組み状況を聞いた。

財務部長は「施設白書は今年度の決算を反映し、来年度の公表を目指す」とし、「固定資産台帳については今年度決算

◆環境変化ストレス

最近、環境変化ストレスや軽度発達障害が増加傾向にあると指摘し、その取り組み状況を聞いた。

財務部長は「施設白書は今年度の決算を反映し、来年度の公表を目指す」とし、「固定資産台帳については今年度決算

緒になったものがあれば、切れ目のない教育が生まれる。中学校と高校間も同様です」と持論を展開。多様な教育の実現には、これくらいの柔軟性が必要かもしれない。

◆不登校対策

齋藤啓氏(共産)は新教育長に、いじめ、不登校、教員の多忙化などについて聞いた。

その中で新教育長は不登校対策についてまず一人を救う。新たな一人を出さない。決意で、教師がすべての子どもが安心して居場所づくり

教育の目的は「生きる力」の育成

重要」と答弁。長年の課題であった南栄地区の具体的なまちづくりが急がれる。

◆公共施設白書  
堀田伸一氏(自民)は公共施設をマネージメントするために重要なのは資産の活用であり、そのため

からの新地方公会計への移行に合わせ作業が進み、今年度内に整備を完了する予定」と答えた。

堀田氏は公共施設のマネージメントは「運営」から「経営」への発想の転換が要請されているとした。明快な議論だった。

と小学校の資格が一

くりに心がけ、子ども同士が互いを認め合える「絆づくり」を進めることが大切と強調した。

11年半に及ぶ前教育長の改革の意志を継いで、「居場所づくり」と「絆づくり」をどう具体化するかが今後に期待したい。

◆市民の政治参加  
中西光江氏(共産)は市民の政治参加を広げる取り組みについて質問した。

特に公選法の改正で18歳選挙権が実施されることについて、7月10日の参院選では創造大学で期日前投票を実施することが発表されており、総務部長は「今秋の市長選ではさらに拡大できるように、

他の2大学と協議している」とことを明かした。

豊橋市で7500人いる18歳選挙権者や大学における期日前投票所がどのような成果をもたらすか、注目したい。

◇  
3日間、「何を主張したかったのか」に注目して一般質問を傍聴していたが、折から、都知事の政治資金問題を追及する都議会の代表質問、一般質問に国民が注目する時と重なった。

それだけに、議員には自らの主張を表現するためにどのような組み立てるか、さらなる創意工夫を望みたい。